

黙示録 12 章 1 節-6 節 スタディーガイド

★ 黙示録 12 章 1 節-2 節

また、巨大なしるしが天に現れた。ひとりの女が太陽を着て、月を足の下に踏み、頭には十二の星の冠をかぶっていた。この女は、みごもっていたが、産みの苦しみと痛みのために、叫び声をあげた。

1 節「ひとりの女が太陽を着て、月を足の下に踏み、頭には十二の星の冠をかぶっていた。」

この「月を足の下に踏み」ということばを、イスラエルが月の印を持つイスラム教を足の下に置く、すなわちイスラム教がイスラエルに服従する日が来ると解釈している人々があります。しかし、このみことばは、ヨセフの夢に関連しています。

★ 創世記 37 章 9 節 - 10 節

ヨセフはまた、ほかの夢を見て、それを兄たちに話した。彼は、「また、私は夢を見ましたよ。見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいるのです」と言った。ヨセフが父や兄たちに話したとき、父は彼をしかって言った。「おまえの見た夢は、いったい何なのだ。私や、おまえの母上、兄さんたちが、おまえのところに進み出て、地に伏しておまえを拝むとでも言うのか。」

9 節「見ると、太陽と月と十一の星が私を伏し拝んでいるのです。」

この夢に対して、父親のヤコブが怒っています。

10 節「おまえの見た夢は、いったい何なのだ。私や、おまえの母上、兄さんたちが、おまえのところに進み出て、地に伏しておまえを拝むとでも言うのか。」

これは、太陽がヤコブ、月がヨセフの母親ラケル、そして 11 人の兄たちが 11 個の星として現れています。

この黙示録 12 章 1 節のみことばは、イスラエルを表しています。

ヨセフがイエス様の象徴となっていますから、11 の星がヨセフにひれ伏しています。

創世記 42 章から 44 章で成就し、兄弟たちがヨセフとは気が付かずエジプトの高官にひれ伏しています。

創世記 50 章 18 節で、父ヤコブが死んだあと、「彼の兄弟たちも来て、彼の前にひれ伏して言った。『私たちはあなたの奴隷です』」と夢の成就を告げています。

黙示録 12 章 2 節「この女は、みごもっていたが、産みの苦しみと痛みのために、叫び声をあげた。」

女であるイスラエルがみごもっているのは、イエス様です。



黙示録 12 章 3 節

また、別のしるしが天に現れた。見よ。大きな赤い竜である。七つの頭と十本の角とを持ち、その頭には七つの冠をかぶっていた。

「別のしるしが天に現れた。見よ。大きな赤い竜である。」

竜は、「悪魔とかサタン」という説明が 12 章 9 節に出てきます
サタンとは、ヘブライ語で「敵」という意味です。
悪魔は、ギリシャ語で「非難者、または告訴者」という意味です。

「七つの頭と十本の角とを持ち、その頭には七つの冠をかぶっていた。」

七つの頭は、聖書の中から見ると、サタンが支配権を握った国々の数を表していると考えられます。

1. イスラエルの民を奴隷にしたエジプト。
2. イスラエルが南北に分裂した後、北イスラエルを捕囚に連れて行った、アッシリヤ。
3. 南ユダの人々を捕囚に連れて行った、バビロン。
4. エズラ記やエステル記などに出てくる、ユダヤ人を捕囚から帰還させましたがユダヤを支配し、ユダヤ人で帰還しなかった人々を抹殺しようとした、メディアとペルシャ。
5. ユダヤ人が律法を守ることを禁止し、ユダヤ人の神殿をゼウスの神殿に変え、マカビーの戦争にまで導いたギリシャ。
6. ユダヤ人から多くの税金を取り、イエス様を十字架に架けたローマ。
7. 終末に起こる、いや、今すでに始まっているとも言える、国々が合併して起こる最後の支配者たちと反キリストです。

このサタンは、ギリシャ語のディアデマという、支配者が持つ七つの冠を持っています。七つの国々を支配して、イスラエルの制圧に成功したことが考えられます。

十本の角

終わりの日の支配者たちで、10 人の王たちのことが記されています。



ダニエル書 7 章 24 節

十本の角は、この国から立つ十人の王。彼らのあとに、もうひとりの王が立つ。彼は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す。

十本の角は、この国から立つ十人の王

終末の支配者は、合併した国々の王たち。

彼らのあとに、もうひとりの王が立つ

反キリストのことを預言しています。

彼は先の者たちと異なり、三人の王を打ち倒す

反キリストは十人の王たちと違って仲良く支配するのではなく、反キリストに反発する者たちを打ち倒すという預言です。

★ 黙示録 17 章 12 節

あなたが見た十本の角は、十人の王たちで、彼らは、まだ国を受けてはいませんが、獣とともに、一時だけ王の権威を受けます。

あなたが見た十本の角は、十人の王たちで、彼らは、まだ国を受けてはいません

十本の角が、やはり十人の王であることを語っています。
しかし、このことが、まだ未来のことであることを伝えています。

獣とともに、一時だけ王の権威を受けます

反キリストと共に一時だけ権威を受けます。
黙示録で一時というのは1年のことです。

★ 黙示録 12 章 4 節

その尾は、天の星の三分の一を引き寄せると、それらを地上に投げた。また、竜は子を産もうとしている女の前に立っていた。彼女が子を産んだとき、その子を食い尽くすためであった。

その尾は、天の星の三分の一を引き寄せると、それらを地上に投げた

これは、多くの神学者によって意見が違ってきます。
昔から考えられていることは、サタンが罪を犯した時、天の使いたちの中から3分の1を自分の味方とし、その墮天使たちを地上に送って人間を攻撃させているという理解です。

また、竜は子を産もうとしている女の前に立っていた。彼女が子を産んだとき、その子を食い尽くすためであった

イエス様が十字架の御働きを成し遂げないように、何度も殺そうとしました。
イエス様のご聖誕の後、2歳以下の子どもを殺したのはそのためです。

また、船の中で眠っていらっしやる時、船を沈めようと嵐をもたらしたり、ユダヤ人の石投げによって殺そうとしたり、さまざまな方法でイエス様を食い尽くそうとしました。



黙示録 12 章 5 節

女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである。その子は神のみもと、その御座に引き上げられた。

女は男の子を産んだ。この子は、鉄の杖をもって、すべての国々の民を牧するはずである

メシア王国到来後の、政治情勢を預言しています。

メシア王国で国々を牧する時、鉄の杖を持つことが預言されています。

全員が従順であるのなら、鉄の杖は必要ありません。しかし、人間の不従順さは簡単に変えることができないと考えられます。ゆえに、鉄の杖を持って厳しく支配なさいます。

その子は神のみもと、その御座に引き上げられた

イエス・キリストは現在、父なる神様の右側に座して、戻って来られる時を待っていらっしやいます。

この黙示録 12 章の 1 節から 5 節までがイスラエルとサタンの紹介の箇所です。



黙示録 12 章 6 節

女は荒野に逃げた。そこには、千二百六十日の間彼女を養うために、神によって備えられた場所があった。

女は荒野に逃げた

イスラエルを紹介した箇所から、終末に実際に起こる預言に変わりました。

千二百六十日の間女を養うために、神によって備えられた場所があった

すでに神様によって備えられた所です。

逃げる期間は 1260 日です。聖書暦の 3 年半です。

その場所で 3 年半、神様によって養われます。



OMEGA MINISTRIES
OMEGA BIBLE STUDY